

授業科目名・形態	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	古川博文・石岡和志・林宏二	実務経験の有無	有	開講期	4年後期

【授業の主題】

本講は、精神保健福祉援助実習の意義について理解するとともに精神障害者のおかれている現状、生活の実態や生活上の困難について学習し、個別指導及び集団指導を通して精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術などを体得することを目的とする。また、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。

【到達目標】

- 1) 精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術、精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務などについて、実習体験を踏まえて確認・発表できる。
- 2) 実習記録や実習体験を踏まえた自己に求められる課題の整理と実習の総括として実習報告書を作成できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション、実習の振り返り①
- 第2回 実習の振り返り②
- 第3回 実習報告書作成①
- 第4回 実習報告書作成②
- 第5回 実習発表準備①～プレゼンテーション資料作成～
- 第6回 実習発表準備②～プレゼンテーション資料作成～
- 第7回 実習発表準備③～プレゼンテーション資料作成～
- 第8回 実習発表準備④～プレゼンテーション資料作成～
- 第9回 実習発表準備⑤～プレゼンテーション資料作成～
- 第10回 実習報告会①
- 第11回 実習報告会②
- 第12回 実習報告会③
- 第13回 実習報告会④
- 第14回 実習報告会⑤
- 第15回 実習報告会⑥

【授業実施方法】

基本的には演習（個人・グループ）で行う。

【授業準備】

精神保健福祉法並びに障害者総合支援法について復習し、実習先の法的位置付けや精神障害者の置かれている現状などを理解して、授業に臨むこと。

【主な関連する科目】 精神保健福祉援助実習

【教科書等】

日本精神保健福祉士養成校協会編：精神保健福祉援助実習指導・実習（第2版）、中央法規出版、2016.

【参考文献】

授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

提出物（実習報告書など）50%、実習報告会発表（プレゼンテーション資料）50%で評価する。60%以上の得点で合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

私は福祉施設でソーシャルワーカー（社会福祉士7年・精神保健福祉士6年）として、利用者、その家族、支援者等への相談業務を経験している。授業を通して社会福祉学の基本知識だけでなく、実務経験から得たソーシャルワーカーとしての知識・技術・価値を統合する能力についても高めていきたい。

【学生へのメッセージ】

実習体験を今後に活かせるよう実習内容について十二分に振り返り、自分の成長課題を見つけてください。1週間に複数回開講するので、遅刻・欠席がないよう自己管理してください。